

# 女性向けユニホームプロジェクト

## 「おしゃれ」に楽しく働く

全建協連

入選作品5点を選出する。最優秀には賞金10万円、優秀は5万円、入選は2万円をそれぞれ贈る。

最優秀、優秀作品はミドリ安全が試作品を作り、2023年2月に発表会を開催する予定。審査員は古谷教授のほか、浜田紗織ワーク・ライフバランス執行役員、三上美絵フリーライター・広報研修講師、武山利子宮城建設女性の会2015会長・武山興業専務執行役員、谷協暁建設振興基金理事長、佐古かがりエムシアパレルデザイナーナ、藏谷伸一全建協連政策参与が務める。



【建設通信新聞 令和4年7月13日 1面】

全国建設業協同組合連合会（全建協連、青柳剛会長）は、建設業で働く女性のためのユニホームデザインプロジェクトを開始した。12日、コラボレーションする東京モード学園（東京都新宿区）の学生に向けて、キックオフとなるオリエンテーションを開き、募集要項などを説明した。写真。今後9月まで作品を募り、10月には最優秀賞などを決める予定だ。

全建協連は、5年前にもユニホームデザインプロジェクトを開催し、そこでのアイデアは一部の建設業協会などで

実際に採用され、現実のものとして協会職員らに着用されている。前回のコンテストから5年がたち、建設業で活躍する女性もさらに増えてきたことから、女性技術者・技能者向けの新たなデザインを募ることにした。

説明会で青柳会長は「安全で作業がしやすいことはもちろんだが、おしゃれだと思えるユニホームがあれば、もっと楽しく働くことができると。皆さんが考えたアイデア、デザインが建設業界のイメージアップにつながっていく」と期待を込めた。

デザイン条件は特に設けず、自由な発想で作品を求め、約400人の学生が参加対象となる。10月18日に審査会（審査員長・古谷誠章早大理工学術院教授）を開き、最優秀作品1点、優秀作品2点、

デザインプロジェクトは建設業振興基金、全国建設業協会、東日本建設業保証、西日本建設業保証が協賛・後援する。

## ユニホームデザインコンテスト

# 5年ぶり、女性用限定で

全建協連

全国建設業協同組合連合会（全建協連、青柳剛会長）が東京モード学園（東京都新宿区）と組み、建設現場で着るユニホームのデザインコンテストを5年ぶりに開く。建設業の女性活躍が



広がってきたことを踏まえ、今回募るユニホームデザインは女性技術者・技能者向けに特化。東京モード学園の学生にデザインしてもらおう。

コンテストは「建設業で働く女性のためのユニフォームデザインプロジェクト」と自信と誇りを着るⅡ」と銘打ち展開する。

12日に東京都新宿区の同学園総合校舎モード学園コクーンタワーで説明会を開いた。9月にデザインを提出してもらおう。10月18日に業界関係者やデザイナーが審査し、最優秀作品などを決める。審査員長は古谷誠

章早稲田大学理工学術院教授が務める。来年2月22日にミドリ安全が試作するユニホームの試着発表会を行う。

説明会で青柳会長は「建設業が変わっていく上で『女性の視点で快適職場』の実現は大きなテーマ。毎日着るユニホームが安全で快適なのはもちろんだが、『おしゃれな作業着』ならもっと楽しく働けるのではないか」とあいさつした。「ユニホームの製作を通じて、一緒にものづくりについて考えることを楽しみにしている」と期待を示した。

### 写真

デザインは同学園の2、4年生に依頼。説明会にはファッションデザイン学科4年生約130人が参加した。